

本草図譜卷之七十九目錄

香木類

一 種	一 種	一 種	一 種	一 種	松
さかりまろ	あひうろ	ひとせのまろ	あひうろ	まろ	
七	三	五	三	一	
一 種	一 種	一 種	一 種	一 種	
かたそけまろ	かきまろ	ひとせのまろ	かきまろ	まろ	
七	四	五	三	二	
八					
枯子松					
解集					
さんごのまろ					
八					

一 種

葉の形前茶  
似て細く先尖  
り面背共下深  
緑色あり





一種	一種	一種	松茸	松實	松花	松諸	松脂
しむらう	ろさりあき	かむろあき				ちやん	まろあき
	廿	廿					
杉菌	一種	一種	杉	艾納	木皮	松葉	松節
	あんならうあき	たまあき	まき				

一種	一種	一種	一種	一種	一種	一種	五鬣松解
あられまろ	うろまろ	あろせんせう	あろまろ	あろまろ	あろまろ	あろまろ	あろまろ
			廿				九
一種	一種	一種	一種	一種	一種	一種	一種
りやうのひや	あろまろ	あろせんせう	せんせう	あろまろ	あろまろ	あろまろ	あろまろ
六	七	六	五	五	五	五	十

本草図譜 卷之十一 金





本草図譜 卷之七十九

本草図譜 卷之七十九

香瓜類

東都  
男門人

岩崎  
常正  
信正  
孝正

著  
猿

本草図譜 卷之七十九  
丹桂水皮 附録 不詳

本草図譜

卷之七十九





本草図譜

卷之七十九

松

まり 色無草 集五 おきふく

ときんぐさ ときよふさ ときれん

まついさ たいけさ くのりさ 以上

まつよふさ 藻塩 ちあき ちあきすく やさ

めさき さ あとむき さ ちりけ さ

延喜草 百草 註 霜下傑 典釋

髯公羽 類聚 奈火文 名物 蒼顔史 群方

叢爪 通 支離叟 在花 氷青龍芽 在祖

萬丈龍芽 註 止 註 紫 註 ヒエニス 註

へいんアッアルホーム 加印七

右に上る物ハ總て松の惣名ハ大和本草ハまついさなるもの意上畧くもたま  
と通凡久しく壽もたもつ亦あり史記龜策傳も引て松柏為百木長  
而守門閭と云り雄雌ありて雌は物ハ其葉美あり綫内不多し  
之り故ハ松草 綫内多き去雄は物ハ其葉粗し雄多き地より  
茯苓多く出つ大樹と云ルハ樹心又根又節の中ハ赤色あり此  
を切ると云里家山ハ焼ハ用サ又たつまると云ルハ又牙状ハ作り用  
ゆルハ蓄の葉ありと俗ハ之より年々ハ奇品を生し數十種ハ至今圖  
を物ハ其一ニを載るのみ

一種 ころすろ 黒松 説

俗ハあまのし標を物中ハ樹高大ハ至る樹皮鱗甲を引黒褐色ハ其  
葉長サ三寸許リ深綠色春の末ころすろを生し其元ハ花を開き空を結ふ圖如

本草図譜 卷之七十九



本草図譜  
卷之二十九



本草図譜  
卷之二十九





本草図譜  
卷之十一  
松



黒松と赤松と  
相半して樹皮赤  
黒色黒松あり  
ハ鱗甲少く細  
く薄く葉も少  
く細く



本草図譜  
卷之十一  
松

一種  
あつごう





本草図譜 卷之七十九

本草図譜 卷之七十九



一種

かまら

常別鹿嶋に産れ  
 形黒松に似て葉長  
 く剛く上に向い生  
 れ此樹異なり根  
 の本より切ると科  
 條を生れ以て奇  
 呂とありて

ひとまのまろ

奥州に産れ  
 此物真の一針  
 にあふれ二葉  
 合て一葉に見  
 られども異なる  
 処に二葉あり





本草図譜 卷之二十九



一種 志下がまろ  
 葉の形黒松に似  
 半面緑色半面白  
 色ふまのふり

本草図譜 卷之二十九



一種 志とものまろ  
 下野古河に  
 産る葉の形  
 黒松に似て  
 全く一科の物  
 也





本草図譜

卷之廿九

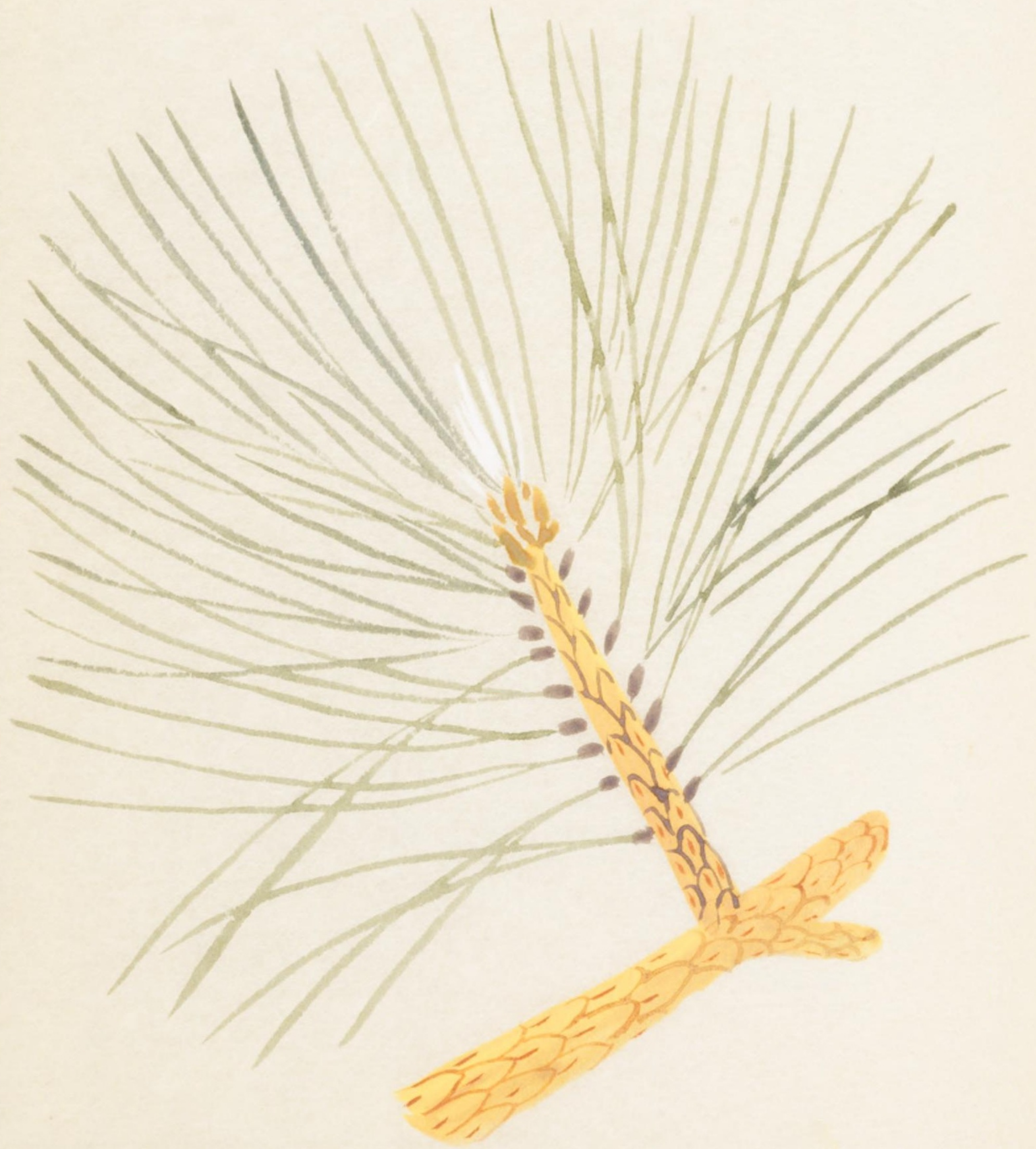
木

一種

志もふりまつ

白松

葉の形黒松に似て  
葉の背面と葉の  
稜が如し



本草図譜

卷之廿九

木

一種

志やのの

葉の形黒松に似て  
葉の半白色なりて蛇  
目傘の如し





本草図譜 卷之七



一種

カケリマ

形黒松に似て  
ミヅノ生れし時  
より下の皮を  
て延び皮條下  
毎に物を以て  
叩け上に向ハ  
一む

本草図譜 卷之七

一種

かたそげのまり

葉の形状黒松に似て  
枝の半辺に葉を生じ





本草図譜 卷之十一

枯子松集解 さんごのまつ

しろむのまつ

三針松海松子集解

孔雀松同上 三鬣改面圖史

奥列木の松山あり形  
あつらふ似こ一本より三  
葉を生じ田村氏の説は  
奥州方言ゆゆと云ふ  
三針之又江州唐崎の松も  
三針あり最も両針の間は  
一針ありと云ふ



五鬣松集解 ぶやうのまつ

五粒松海松子格下 五鬣松泉州府志

五釵松續書



最尋常の五葉の  
まつ之葉細く短く黒  
松小比をれハ葉ツク

本草図譜 卷之十一





本草図譜

加州白山野別中禪  
寺奥別會諱信別  
草津御藏山約ヶ  
巖曰別金峯山越  
後の高山等小産  
此葉の形状志もふ  
り上葉に似る枝横  
に延引 其地不附  
必あり根を止ん



本草図譜

卷之十一

九

一種

つわねまる あいづら

せんぶさうまつ 花江戸

よろかね 後越

えのまつ 別尾

ちもりまつ

だけまる 別羽

千歳松 花松傳





本草図譜 卷之二十九

一種

葉五針中  
尋常の五葉  
のまろ葉  
短

まろまろ



本草図譜 卷之二十九

一種

まめまろ

葉五針中  
より松と形  
同しは白  
色あきとの





本草図譜 卷之十一

本草図譜 卷之十一

一種

たけのこ



葉五針にて  
形尋常のこ  
やうのやうな  
白粉を帯ふ

一種

たけのこ

葉五針にて  
尋常のこ  
より色少し薄  
く細々と短し





本草図譜 卷之七十九

本草図譜 卷之七十九

一種

つまじろごま

葉五針形で  
形常のごまの  
の如く葉の先  
春芽出ても  
初夏まで白く  
幼木まで全く  
緑色とふ



一種

かまろごま

かろこ

葉六針形  
了戻りし  
此葉より  
変生するもの  
あり





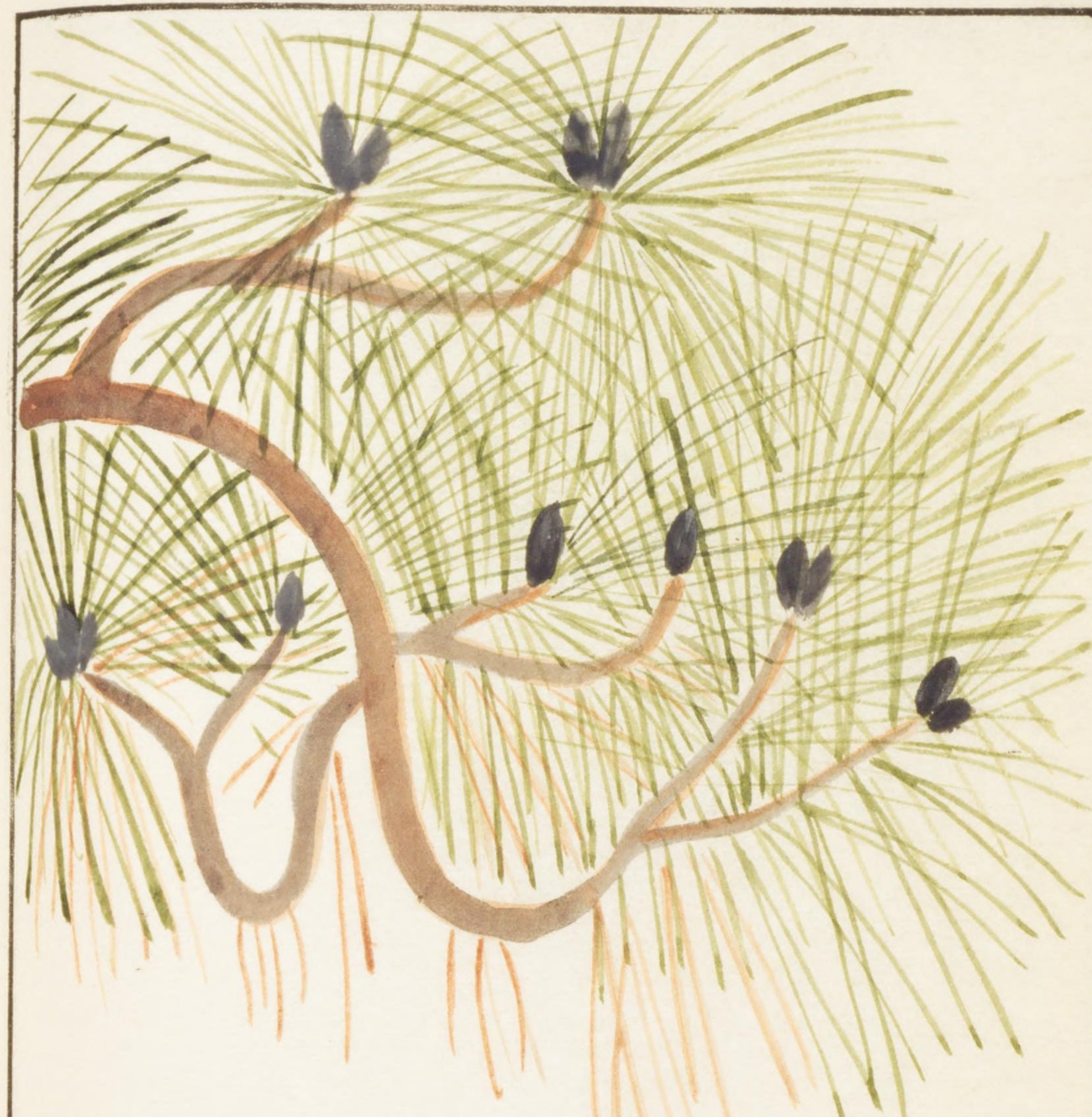
本草図譜

卷之九

七



花



一種

あひら

赤松

朱松

樹皮赤褐色なり  
鱗甲より皮薄し  
葉より短く柔  
之故に黒松より  
繁く実も又多く  
結へり

本草図譜

卷之九

七



本草図譜

卷之十一

五



性亦松よりて葉の形も  
黒松の如く少短く唯実  
生より二三年より結ぶ  
結ぶと一歳 きの如  
此物前云千歳松とい  
同名異品也



本草図譜

卷之十一

十四

一種

せんせいせう





本草図譜

卷之二十九

十一

一種

をうこんせう

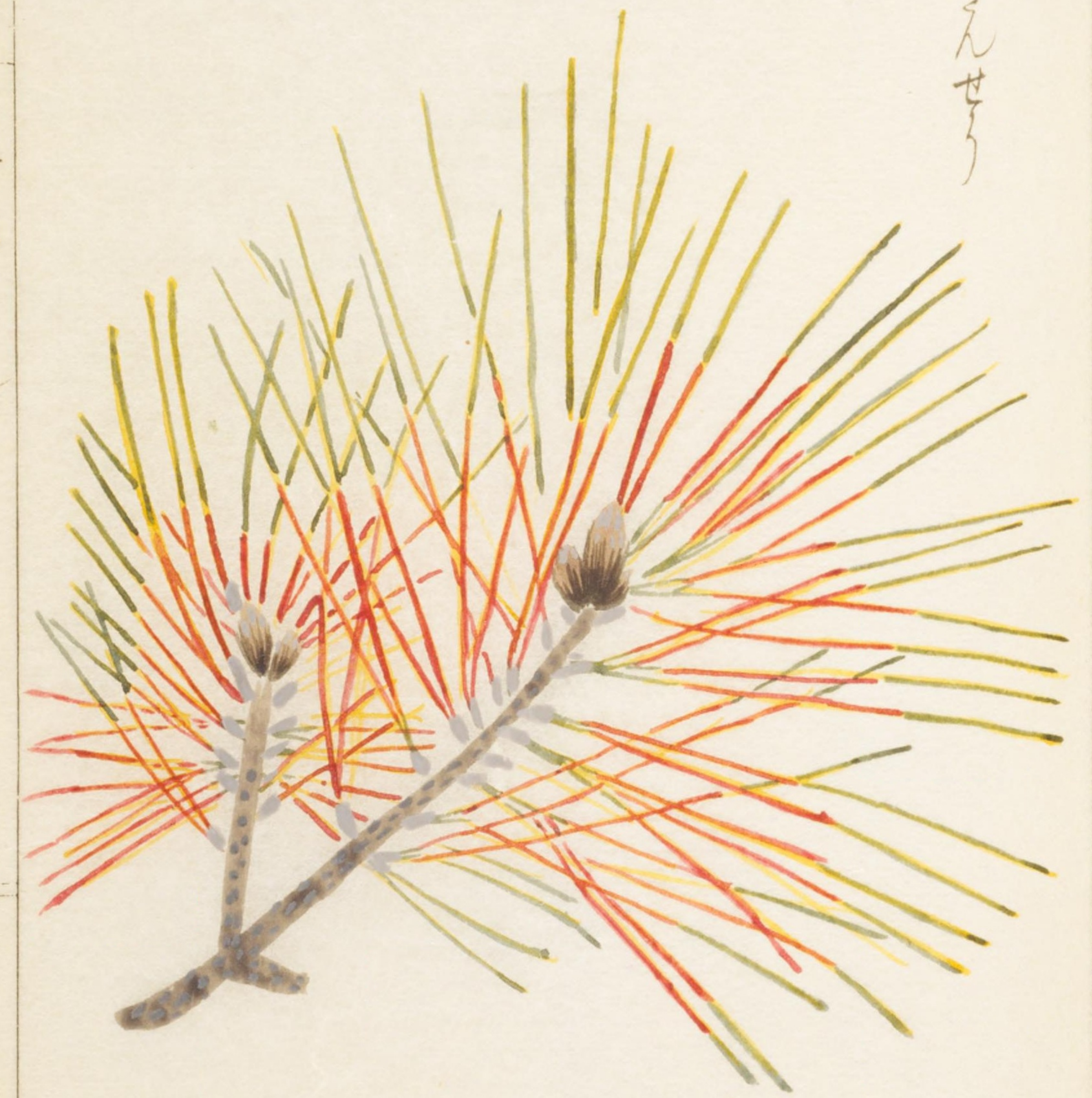
性赤松  
ナマキ春  
夏の候ハ  
青く秋ハ  
赤き光  
小至ニ全  
く黄色ク



一種

こうきんせう

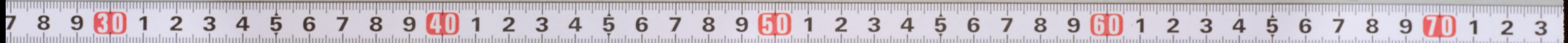
形状前條の  
より多し  
如く春夏の  
候ハ青白と  
あり秋月小至  
ハ紅を帯ひ  
冬月小至ハ深  
紅とあり又春  
小至ハ紅き如  
白色とあり



本草図譜

卷之二十九

十一





本草図譜  
卷之十九

一種

やつ房松  
万代せう松

近年大坂  
あり来り  
赤松の類  
中葉色  
細枝繁  
密なり



一種

うつつきまろ  
つまぶろ

葉の形常り赤  
杯の如き葉  
の先黄白色く



本草図譜  
卷之十九

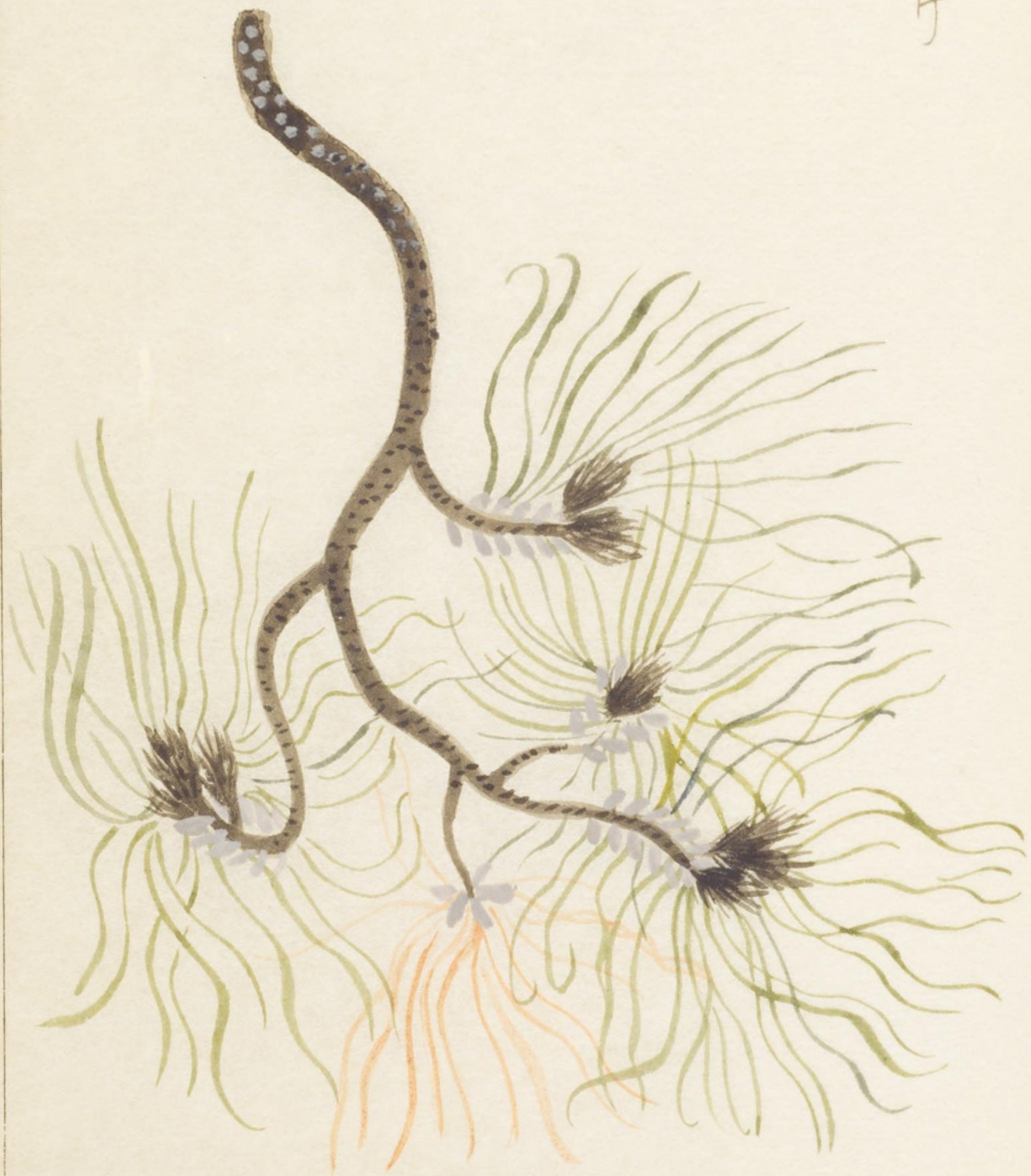


本草図譜 卷之九

本草図譜 卷之九

一種

りあうのさげ  
性赤松の類  
やうに放も葉  
も屈曲せり



一種

ちんれまろ

さかりまろ

性赤松の類やうに葉細く短く  
枝細くこ下葉まろと柳の如し





本草図譜

卷之七十九

松脂

まつやぶ

松膏

本草和名  
引大清証

松肪

丹光之母

丹光真華之母

同共小  
内書引  
並名義

水明

同書引  
録驗方

松樹の生れるやう

松葉

まつのふ

松瀝

ちやん

田村氏の説ハ二種ありと云古渡のちやんハ橄欖木を焼て取りたる津液ハ新渡のちやんハ荷蘭人の説ハ松の枝を焼て津液をとり作ると云故ハ古渡ハ新渡より新渡ハ大ニ異之古渡のちやんハ臭毒も消去用しやんハ新渡のちやんハ膏茶の内ハ入る許り又世間ちやんと稱れりもの胡麻の油ハ松脂を煉合せると物之茶ハ允はと云

松葉

まつのも

松花

まつのもふ

木皮

まつのくわ

松

安貝

果の部ハ出ル

艾納

草部苔類ハ出ル

松

葦

菜部ハ出ル

杉

まつぎ

知名  
鋤

まつぎ

徑木

江南  
開天

紗水

飛

刺杉

物理  
ハ極

大和本草ハ木直云故と云と云と云ハ昔ハ杉をまつぎと云まつぎの字と云ハ杉産ふりといふ集解ハ赤杉白杉と分つ赤杉ハ我實で堅く赤色ハ紫を帯り諸の番柳ハ造ハ水ハ浸ハ三教十年置て香内抄せん最も赤杉といふハ皮の内ハ赤ハあり白杉ハ我手赤ハ此物ハ心ハ赤ハありといふハ少ハ下ハ色薄ハ此樹両品ともハ出る國ハありて善惡の別あり又集解ハ野鷄班と云ハ木理美麗ハ其樹ハ一の羽の如ハ知ててハ

本草図譜

卷之七十九

七十九





本草図譜 卷之七十九



一種  
かまろ  
たみ

形状九子の長き  
似て粗く尋常  
物より繁る葉細

本草図譜 卷之七十九



たみ

集解二種ノ樹を令つとノ  
樹皮より花實より同一形  
ノ唯ままと稱するの共葉ノ形  
内長き五六分先尖り春月枝  
の中の花を生け松花の似て  
も頗る松実の似たり





一種

たすをぢ

葉の形常々物も密に  
枝も又密なり自ら円  
形をなれ此物より又枝葉  
も密なりて切りにては  
ふくもまんねんをさす



一種

らさりまぢ

ともくまぢ

形状多しをす  
お似葉板の附  
て生れ



本草図譜

卷之九



本草図譜 卷之七十一



樹高大小  
至葉細  
短柔  
粉綠色  
むろとさ  
むろむろの  
畧ヤと経  
物柔  
故名

一種  
むろむろ

本草図譜 卷之七十一



一種  
むろむろ

葉の形常の岳  
似て枝短長  
て極短の予似り





